

脳静脈還流は後頭・辺縁静脈洞から側副血行路を介して頭蓋外に流出していた。後頭静脈洞と頭蓋外内頸静脈の圧較差は 12 mmHg であった。脳幹の圧迫解除と髄液循環動態の改善を期して後頭蓋窩減圧開頭および C1 椎弓切除を行った。水頭症を呈した achroplasia では両側頸静脈孔の狭小化に伴って静脈還流が側副血行路に依存している場合が多い。減圧術の際には静脈系の愛護的な操作が必要と思われた。

A-12) Weber syndrome を呈した Persistent primitive trigeminal artery の 1 例：
神経放射線学的所見を中心に

塩屋 齊・菊地 顕次（由利組合総合病院）
須田 良孝・進藤健次郎（脳神経外科）

患者は歩行困難と右眼瞼下垂を主訴とする 69 歳女性。神経学的に右動眼神経麻痺、軽度の左不全麻痺、構音障害が認められた。CT では橋前槽の石灰化以外に明らかな異常はなかった。3D-CTA では右内頸動脈から斜台を貫き脳底動脈上部に達する血管が造影され、Persistent primitive trigeminal artery (PPTA) と診断された。脳血管撮影では右内頸動脈 C4-C5 移行部から PPTA を介して脳底動脈上部さらに両側の後大脳動脈、上小脳動脈が造影された。入院後、低分子デキストラン、グリセオールを使用し、リハビリも開始した。発症後 5 日目の MRI で右大脳脚から視床にかけて T1 強調像で低信号域、T2 強調像で高信号域が認められ今回の Weber syndrome の病変と考えられた。発症後 7 日目の脳血流 SPECT では右大脳脚付近に著しい低灌流域があり、Diamox 負荷でも脳血流量の増加はなく循環予備能は不良であった。発症後 14 日目には右動眼神経麻痺はほぼ改善し、杖歩行も可能になった。

A-13) Persistent primitive olfactory artery

金子 高久・末武 敬司（小樽脳神経）
新谷 俊幸・竹田 正之（外科病院）

前大脳動脈の走行異常である persistent primitive olfactory artery の 5 症例を報告し、既報の 5 例を加え、その臨床的特徴を考察した。(1) この血管奇形は内頸動脈から分岐した後に前内側下方に向かい、嗅神経に沿って前進し、極端な鋭角で反転後走し脳梁吻に至り、以後は pericallosal artery として脳梁上を後走するという特徴を示した。(2) hemodynamic な因子が関

与する屈曲先端部に脳動脈瘤を合併することが多く、くも膜下出血を発症する場合があります。脳動脈瘤の発生に十分注意する必要があります。脳動脈瘤が存在するときには外科的治療を検討する必要があると思われた。(3) 脳動脈瘤根治術を行う場合、嗅神経温存のためには経シルビウス裂接近法より半球間裂接近法で行うことが望ましいと思われた。

A-14) 3 カ月で新たに出現した未破裂脳動脈瘤の 1 例

津田 宏重・川崎 和凡（小林病院）
徳光 直樹・川田 佳克（脳神経外科）

症例は 57 歳女性。平成 10 年 10 月 27 日、左上下肢の筋力低下が出現し当院に搬入された。来院時の CT では右中大脳動脈領域に低吸収域を認め、脳梗塞と診断した。入院時の脳血管撮影では右 central artery が閉塞しており、また右 M1 分岐部に径約 1 cm 程度の未破裂動脈瘤が 1 個認められた。3 カ月後の脳血管撮影では、閉塞血管の再開通を認めた。ところが前回検査でみられた動脈瘤の他に新たな動脈瘤がもう 1 個、右 M2 の分岐部に認められ、計 2 個の動脈瘤が描出された。新たな動脈瘤の直径は 1 cm ほどであった。入院時の MRI では M1 分岐部動脈瘤の signal void が 1 カ所認められたが、それ以外の所見は明らかではなかった。したがって 3 カ月という極短期間に出現した de novo aneurysm であることが疑われた。平成 11 年 2 月 8 日開頭術で clipping を施行した。脳血管写上新たに出現した動脈瘤の壁は比較的厚く、組織学的には繊維化が豊富な tough な組織であり、血栓化していたため、はじめの血管撮影で描出されなかった可能性もあると考えられた。

A-15) 初回手術 20 年後に再増大を来した ICPC 動脈瘤の 1 手術例

三河 茂喜・佐々木正弘（秋田大学）
木内 博之・溝井 和夫（脳神経外科）
太田 徹・神里 信夫（秋田労災病院）
（脳神経外科）

neck clipping は脳動脈瘤治療の golden standard であるが、complete clipping であっても動脈瘤の再増大により再手術が必要な事がある。初回手術 20 年後に再増大を来した ICPC 動脈瘤の 1 例を経験したので、